

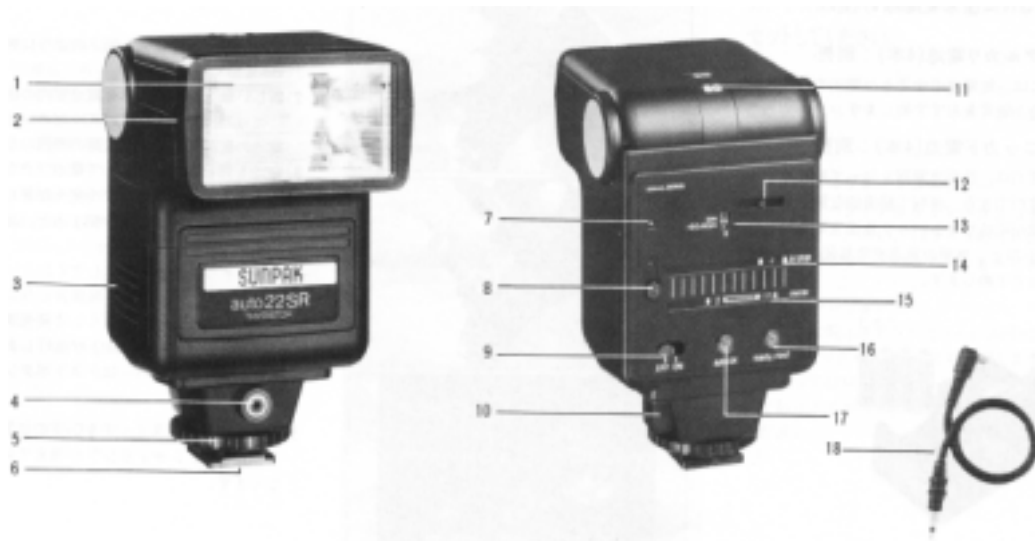
# auto22SR 使用説明書

## はじめに

このたびは、サンパックオート 22SR をお買上げいただきましてありがとうございました。オート 22SR は、最新の技術を装備した直列制御式のオートストロボです。この説明書をよくお読みのうえ、正しい扱い方でご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

## 各部の名称

1. 発光部
2. アクセサリー差込み口
3. 電池ブタ
4. オート受光部
5. カメラ締付けノブ
6. ホットシュー接点
7. モード表示窓
8. モード切換スイッチ
9. 電源スイッチ (OFF ON)
10. シンクロコードソケット
11. バウンス角度表示 (上方  $0^{\circ}$  ~  $90^{\circ}$ )
12. フィルム感度合わせつまみ
13. フィルム感度表示窓 (ISO/ASA, DIN)
14. 絞り表示窓 (F/stop)
15. 距離表示窓 (feet 表示入りスケール)
16. レディランプ/テストボタン (ready/test)
17. オートシグナル (オート確認ランプ) (autoOK)
18. シンクロコード (1P)



### オート 22SR に使える電源の種類

単 3 型アルカリ電池(4 本) 別売

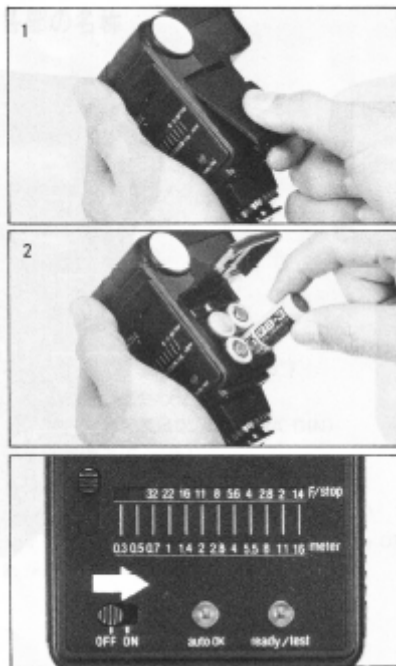
ストロボには、乾電池の中でもパワーのあるアルカリ電池のご使用をおすすめします。

単 3 型ニッカド電池(4 本) 別売

ニッカド電池は、充電器を使って家庭用コンセントから繰り返し充電ができる、便利で経済的な電源です。

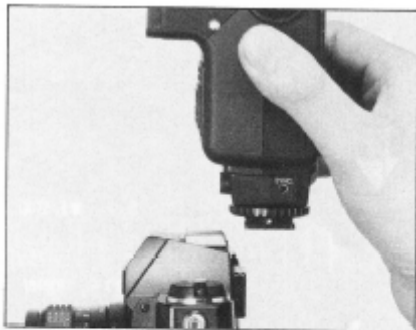
### 電池の入れ方

- 1) 電池ブタをずらして、図 2 のように開けてください。
- 2) 新しい単 3 型電池 4 本を電池室内の + - の図示に従って、電池室に入れてください(図 2)。電池の配列を間違えると故障の原因になります。
- 3) 電池を押しこむようにして電池ブタを閉め、閉めきったら、電池ブタを発光部側に押し上げてください。電池ブタが閉まると、本体と同一平面になります。
- 4) 電源スイッチを ON 側にしてください。図 3 の矢印の方向)ピーという発振音と共にチャージ(充電)が始まり、しばらくして発光準備完了のレディランプ(ready/test)が点灯します。又、レディランプのカバーはテストボタンも兼ねています。
- 5) 電源を切る時はスイッチを OFF の位置にもとしてください。レディランプが消えて発光しなくなります。



### カメラへの取付け方

- a) オート 22SR のシューをカメラのアクセサリースューに差しこみ、カメラ締付けノブをまわして固定してください。
- b) シンクロコードを使うカメラの場合は、付属のシンクロコードで、オート 22SR のシンクロコードソケットとカメラのシンクロコードターミナル(X 接点)を接続してください。
- c) 接点切換式カメラの場合は、X に切換えてからシンクロコードをセットしてください。



### カメラのシャッタースピードをセットしてください。

ストロボに同調するシャッタースピードは基本的には次の通りです。詳しくはカメラの説明書に従ってください。

#### フォーカルプレーンシャッター

シャッターダイヤルを X マーク又は  $\frac{1}{X}$  マークに合わせてください。(X マークの代わりに色違いの数字で表示をしているカメラもあります。)

#### レンズシャッター

レンズに表示されている B ~ 1/500 秒までの間のどのシャッタースピードにも同調します。(カメラによっては M・X の切換レバーがついているものがありますが、その場合は必ず X に合わせてください。)

### オート撮影の仕方

使用フィルムの ISO/ASA 感度を、オートモード用フィルム感度合わせ指標(A)の白線に合わせてください(例えば ISO/ASA100 フィルムの時)。

オート有効範囲を最大に使う場合は、モード切換スイッチを右の写真の位置に合わせてください。

モード表示窓:緑色の A(オートマーク)

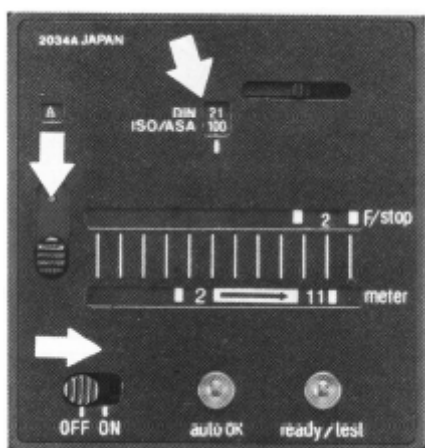
絞り表示窓:F2(ISO/ASA100 フィルム)

距離表示窓:2 ~ 11m

レンズの絞りを F2(緑色の A の時)にセットしてください。これで有効範囲内はつねに適正露出です。

モード切替スイッチを上方に動かすと、黄色の表示に撮影モードが変わります。

被写体の背景や前面もシャープにしたい時は黄色の A(F4)に、モード切替スイッチを合わせてください。(ISO/ASA100 フィルムの時)。



### テスト発光とオートシグナル

オート受光部を被写体に向けてテストボタン(レディランプのカバー)を押してください。被写体が有効範囲内にある時は、発光と同時にオートシグナル(autoOK)が約 1 秒間、緑色で点灯します。オートシグナルが点灯しない時は、被写体にもっと近づくか、有効範囲の長いモードにかえてください。

被写体が有効範囲内にある場合でも、被写体の濃度(反射率)によってはオートシグナルが見つからないことがあります。

レディランプの点灯直後に発光させると有効距離が短くなりますのでご注意ください。

### オート撮影上の注意

- 1) シューのオート受光部は適正な光量を計算する大切な所です。ゴミやホコリで汚れないようにしてください。
- 2) 必ず有効範囲内で撮影をしてください。
- 3) 被写体の手前に反射率の高いもの(例えば白いテーブルクロス、白い花、置物等)があると露出不足になることがあります。

次の場合にはマニュアルにしてください。

- 1) オートで定められた以外の絞りを使いたい時。
- 2) 目中シンクロや逆光撮影又は増灯撮影をする時。
- 3) 被写体の周囲に光を反射するものがあり、それ等がファインダーに入る時(鏡、ガラス、結婚式の金屏風等)。

## バウンス撮影の仕方

### オートによるバウンス撮影

オート 22SR は、オートのまま上方にバウンスをすることができます。オートのテスト発光で、発光部の傾きや、距離が簡単に調節できるうえ、ご使用になるバウンスの角度表示を記録しておきますと、何度でも同じ条件で撮影を行うことができます。

1)バウンスヘッドをお望みの方向に向け、角度表示をバウンス角度合わせ目盛に合わせてください。

上方は 0。から...60° ,90°

無理にねじ曲げたり、角度表示以上の傾きにしようとするとう故障の原因になります。

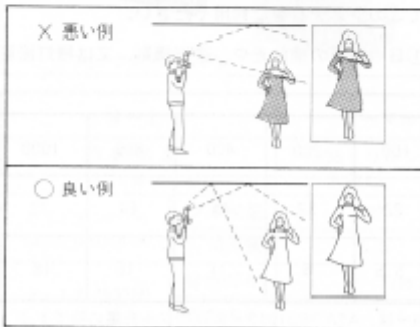
2)撮影をする前にテスト発光をして、オートシグナルの点灯を確認してください。点灯しない場合は有効範囲の長い絞りに変えるか、被写体までの距離をつめてください。

被写体までの距離が近くても反射面(壁、天井)までの距離が遠かったり、反射率が悪いとオートが働かない場合があります。

緑色の A でテスト発光をしてもオートシグナルがつかなくなったり、増灯をする時などはマニュアルにしてください。絞りは反射面の反射率を考慮して決定し、あらかじめテスト撮影をするか、フラッシュメーター(ストロボ用露出計)をご使用ください。

バウンスヘッドの調節は、左の図のように角度が浅いと被写体の上部だけ明るくなり不自然になります。また反射面に蛍光灯のカバーやシャンデリヤ等があると、被写体に光のムラができますのでご注意ください。

反射面に色が付いていると被写体にその色がでますのでご注意ください。



## マニュアル撮影の仕方

使用フィルムの ASA/ISO 感度を白線に合わせてください(例えば ASA/ISO100 フィルム)。

フル光量で撮影をする時は、モード切換スイッチを一番上に上げてください。

モード表示窓に M(マニュアルマーク)が、絞りと距離の窓には、フル光量(ガイドナンバー 22)の数値が表示されています。

撮影距離に合った絞りを読みとりその絞りを、カメラのレンズにセットしてください。

例えば、ASA/ISO100 フィルムで、被写体までの距離が 4m なら、カメラの絞りは F5.6 になります。

逆に、絞りを先にきめて距離をだすこともできます。例えば F8 では撮影距離が 2.8m になります。

小光量(1/16 光量)で撮影する時は、モード切替スイッチをフル光量(M マーク)から 1 段下げてください。表示が 1/16 光量に変わり、ASA/ISO100 フィルムの絞りと距離の数値が、それぞれの窓に表示されます。

オート22SRのガイドナンバー

ASA/ISO感度	25	50	64	100	200	400	800	1000
フル光量	11	16	18	22	32	44	64	72
1/16光量	2.8	4	4.5	5.5	8	11	16	18

ガイドナンバー ÷ 距離 = 絞り (オート22SRのガイドナンバーは、ASA/ISO100フィルムでフル光量の時です。)

## マニュアル撮影

オート 22SR はマニュアルで光量を 2 段階に変えられます。次のような場合には、マニュアルにしてこのシステムをご利用ください。

日中撮影の補助光や、逆光撮影、又は増灯撮影をする時に...

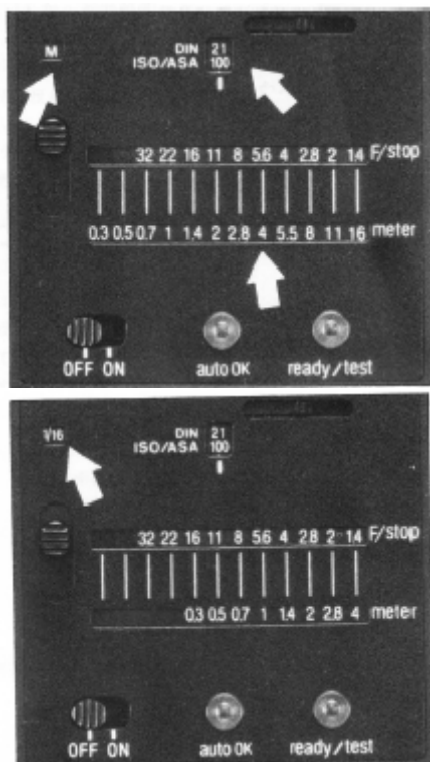
オート(緑色の A や黄色の A)以外の絞りを使いたい時に...

閃光時間を短かくしたい時に...

クローズアップ撮影に...

発光回数を多くしたい時に...

～ の時は 1/16 光量でご使用ください。



ご注意:

- 1)モード切換スイッチは、クリックに従って合わせてください。クリックからはずれていると正確な光量が得られません。
- 2)ご使用になるフィルムの感度によっては、絞りと距離の表示がずれて一致しないことがあります。その場合はカメラの絞りを、中間もしくは絞り数の小さい方に合わせてください。

## オート 22SR のシステムアクセサリ

撮影のバリエーションを更に広げるために、システム化された別売アクセサリが用意されています。アクセサリをいろいろと組合わせて撮影を一層素晴らしいものにしてくださ



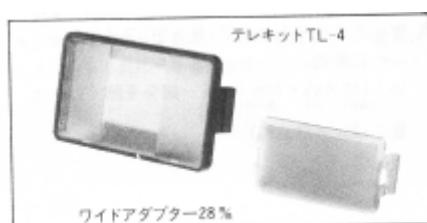
い。

#### テレキット TL-4(別売)

ストロボの光を集光させて光量を増大させ、望遠撮影のためにオートの有効距離を伸ばすアクセサリーです。35 ミリ判カメラで 100 ミリレンズをカバーします。

#### ワイドアダプター-28mm

ストロボの照射角度を広げると共に、光をやわらげる効果を持つアダプターです。28 ミリ広角レンズを使用する時や、影を弱めて写真の雰囲気をもっとソフトにしたい時にご使用ください。



オート		ノーマル	テレキットTL-4	ワイドアダプター 28%
照射角度 (35ミリ判カメラ)		35ミリレンズ をカバー	100ミリレンズ をカバー	28ミリレンズ をカバー
ガイドナンバー (ASA/ISO100-m)	フル光量	22	32	16
	1/16光量	5.5	8	4
オート有効範囲	緑色のA	2~11m	2.8~15m	1.4~7.5m
	黄色のA	1~5.5m	1.4~7.5m	0.7~4m

#### 性能

ガイドナンバー：

ISO/ASA100-m 22

ISO/ASA400-m 44

(Full 光量)

オート有効範囲： ASA/ISO100 の場合

F2 に設定 2~11m

F4 " 1~5.5m

オート受光角： 15°

オート閃光時間： 1/1,300 ~ 1/25,000 秒

マニュアル各光量の閃光時間：

Full 光量 1/1,300(秒)

1/16 " 1/20'000

初期発光間隔及び発光回数：

	Full 光量	1/16 光量	
制御回路:	アルカリ電池 4 本	6 秒 360 回	0.5 秒 2,450 回
照射角度:	ニッカド電池 4 本	3 秒 150 回	0.5 秒 1,450 回
色温度:	直列制御方式		
寸法:	35 ミリ判カメラで 35 ミリレンズをカバー。		
重量:	デイルイトタイプ(昼光色)フィルムに最適。		
	110x65x70 mm(シュー部分を除く)		
	185g(電池別)		

発光回数とは：常温下で製造後 3 ヶ月以内の新しい電池を使用し、30 秒間隔で連続発光させ、発光後レディランプが点灯するのに要する時間が 30 秒以内である状態までの回数。

発光間隔とは：発光回数に示した条件下において、発光後、レディランプが点灯するまでの最短時間をいいます。

性能表の発光間隔及び発光回数について：電池メーカーの違い、電池製造後の日数及び使用時の気温、状況により多少の差が生じることがあります。

外観及び性能を断わりなく一部変更する場合があります。

## ご使用上の注意

ご使用後はストロボから電池を抜いてください。電池を入れたままにしておくと電池の液もれで故障の原因になることがあります。液もれによる修理費は高額になります。

長期間ご使用にならない時は、月に 1~2 度発光テストをしてください。

レディランプの点灯までに 30 秒以上かかるときは電池を 4 本とも新しいものに交換してください。1 本だけ入れ替えたり異なる種類の電池を同時に入れたりすると電池が液もれをおこしたり、破裂することがあります。

レディランプの点灯直後に発光させると、1 絞り明るさが落ちます。よりよい写真を撮るためには、レディランプ点灯後、数秒時間をかけてください。

湿気の多い所や高温の場所には置かないでください。(炎天下の自動車内やストーブの近く等。)

お手入れは柔かい布でおふきください。シンナー・ベンジン・アルコール等の揮発性の液体は使用しないでください。

ストロボには高電圧の部品が組み込まれています。危険ですから絶対に分解しないでください。

## アフターサービスについて

保証は同封の保証書によりますので、よ<お読みのうえ大切に保管してください。

万一故障した場合はお買い上げ店又はサンパックサービスセンターに必ず保証書をそえ

てご持参ください。

修理を依頼される前に、この説明書をもう一度お読みになると共に、電池が消耗していないかお調べください。